高等学校

平成9年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

教育研究員名簿

No.	学区	学校名	氏名
1	2	都立砧工業高等学校	古閑伸幸
2	3	都立永福高等学校	延藤修一
3	3	都立四谷商業高等学校	高水茂
4	5	都立荒川工業高等学校	新井英敏
5	7	都立八王子高陵高等学校	早山義郎
6	7	都立成瀬高等学校	上野勝敏
7	7	都立山崎高等学校	北條悠子
8	8	都立秋川高等学校	伊東直晃
9	11	都立大島南高等学校	信岡新吾

担当　教育庁指導部高等学校教育指導課　指導主事　出張　吉訓

目　次

Ⅰ　はじめに

1　研究のねらい …… 1

2　研究の背景と主題設定の理由 …… 1

3　研究の進め方 …… 1

Ⅱ　調査結果からみた生徒の意識と実態

1　人間関係について …… 2

2　集団活動の経験について …… 4

3　課題解決能力について …… 5

Ⅲ　調査結果に基づいた考察と提言 …… 7

Ⅳ　実践事例

1　ホームルーム活動　－自己理解を深める指導の工夫－ …… 8

2　ホームルーム活動　－自ら考え、話合いを通して生きる力をはぐくむ指導の工夫－ …… 11

3　ホームルーム活動　－生きる力をはぐくむ文化祭ステージ指導の工夫－ …… 14

4　学校行事　－地域社会との連携・協力を図った集団活動の指導－ …… 17

5　生徒会活動　－自己実現を目指した文化祭企画指導の工夫－ …… 20

6　生徒会活動　－生徒による体育祭の企画・運営に向けての指導の工夫－ …… 22

Ⅴ　まとめ …… 24

研究主題　「集団活動を通して生きる力をはぐくむ指導の工夫」

Ⅰ　はじめに

1　研究のねらい

日々の教育活動は、一言でいえば生徒の「生きる力」を育てることと言える。特別活動においても、生徒がよりよく成長していくことが重要である。そこで、生徒一人一人が「生きる力」をはぐくむための活動に視点をおき、そのための集団活動の指導の工夫を探る。

2　研究の背景と主題設定の理由

これからの社会は、国際化・情報化の進展、科学技術の発展、地球環境問題、エネルギー問題など、変化の激しい先行き不透明な厳しい時代である。今日、そのような変化の激しい社会にあって、他者とよりよく共存し、そこから生まれる課題を主体的に解決していく力が求められている。

しかし、最近の生徒は、積極的に物事に取り組もうとしないですぐあきらめてしまったり、他者と協調して何かを創り出していこうとすることが苦手になっている。又、自分で課題を発見し、解決していこうとすることが難しくなってきているのではないだろうか。

その原因としては、経済の成長、交通・情報通信システムの急速な整備などにより、生徒をとりまく社会や環境が急激に変化していることがある。生徒は、物質的豊かさや便利さの中で生活する一方で、「ゆとり」を失ってきている。また、核家族化や少子化が進むなか、同じ目的をもった集団活動の経験をしにくくなってきている。そのため、他者の立場や考え方を意識することが難しくなったといえる。そして、生徒の中に「指示待ち人間」の増加や集団活動に積極的にかかわりあっていこうとしない状況を生み出している。

他者とのかかわりのなかではぐくまれる協調性、社会性、倫理観、責任感などは、学校教育の中で、「為すことによって学ぶ」過程を通してはぐくまれる。特別活動には、これらの資質を育成するための大きな役割が期待されている。

本年度教育研究員は、生徒自らが興味・関心をもって集団活動の経験を積み重ねることが必要であると考えた。そのような経験のなかで、「意味ある他者」の存在を意識し、自己理解・相互理解を図り、感動や悩みを共有し合うことにより、他者とより良くかかわろうとする態度が養われる。また、集団の中での自分の役割や課題を発見し、これを解決しようとする意欲も培われる。そして、達成感や成就感を共有することで、物事に意欲的に取り組み、みんなで成し遂げようと協調する態度や社会性、責任感が得られると考えた。

3　研究の進め方

生徒の人間関係に対する意識や実態・集団活動体験等に関してのアンケート調査を行った。次に、アンケート調査の分析結果をもとに、指導方法の工夫を提言としてまとめた。そして、提言に沿った実践事例を、ホームルーム活動・学校行事・生徒会活動について研究した。

Ⅱ　調査結果からみた生徒の意識と実態

学校生活における生徒の人間関係や集団活動に対する意識の実態を把握するために、９月上旬に教育研究員が勤務する９校でアンケート調査を実施した。その結果、調査回答数は全日制課程で1,107名、定時制課程で59名、総数1,166名【男子798名、女子368名】、【普通科779名、専門科387名】の回答が得られた。

1　人間関係について

生徒の規範意識とその行動の実態及び家庭又は学校生活における人間関係への意識について調査した。以下がその回答結果である。

(1)　あなたは夕食を誰と食べることが多いですか。(図１参照)

夕食の時間は、家族にとって一家団らんで話をすることのできる貴重な時間帯であるが「一人で」「その他」を合わせると30.7％の生徒が家族と食事をとっていない。
(40人学級で12.3人に相当する)
このことは、家族のライフスタイルの変化などから家族で一緒に食事をとれなくなってきており、集団の基本となる家族の関係が希薄になってきていると考えられる。

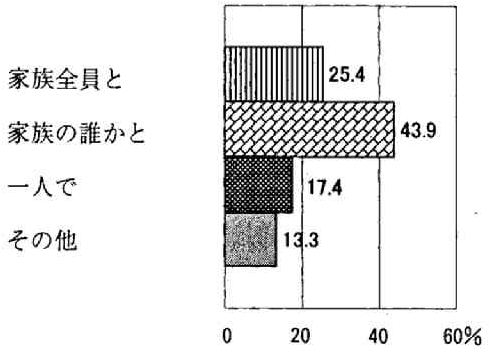


図１　あなたは夕食を誰と食べることが多いですか。

(2)　あなたは普段、家族とどの程度話をしますか。(図２参照)

「よく話す」「わりと話す」を合わせると79.2%の生徒が家族の誰かと話をしている。
一方で、「殆ど話さない」「全く話さない」を合わせると20.8％の生徒が家族と積極的に話をしていない。前問の回答結果と合わせると、家族に対して本当の自分を見せようとしない、又は、見せることができない生徒が多いのではないかと考えられる。家族関係が希薄になっていることの表れではないか。

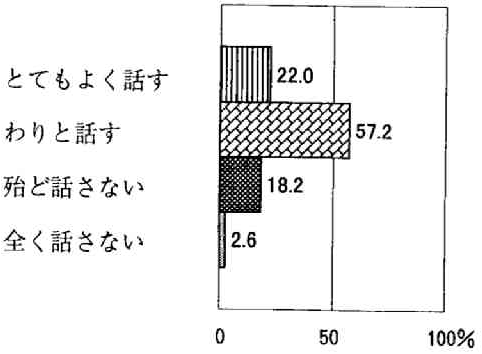


図２　あなたは普段、家族とどの程度話をしますか。

(3)　あなたが本当の自分を、素直にさらけ出せる相手は誰ですか。(図３参照)

友人に本当の自分をさらけ出していると回答している生徒が51.9％と半数以上いる。高校生ともなれば、家族より外の世界に自分の居場所を求めていく傾向が強くなると考えられる。このため、友人関係が今後の生徒の人格形成の上で重要になってくると思われる。

さらに、「そんな人はいない」と答えた生徒が18.6%もいた。このことから、自分の中に閉じこもり、自己開示ができない生徒や人間関係を作れない生徒であると考えられる。

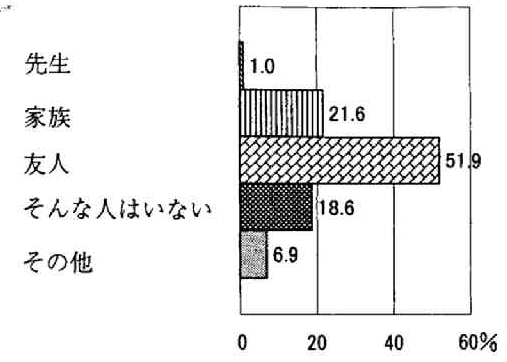


図3　あなたが本当の自分を、素直にさらけ出せる相手は誰ですか。

(4)　雨の日に置いてあった他人の傘を黙って利用することを、あなたはどう思いますか。(図4参照)

「とても悪い」「少し悪い」を合わせると91.5%の生徒が、他人の傘を黙って使うことはいけないと自覚しており、今の高校生の多くは規範意識をもっていると考えられる。

しかし、「全く悪くない」「あまり悪くない」を合わせると8.5%の生徒が悪いことであるという意識をもっていないことになり、これらの生徒の指導を考えていく必要がある。

(40人学級で3.4人に相当する)

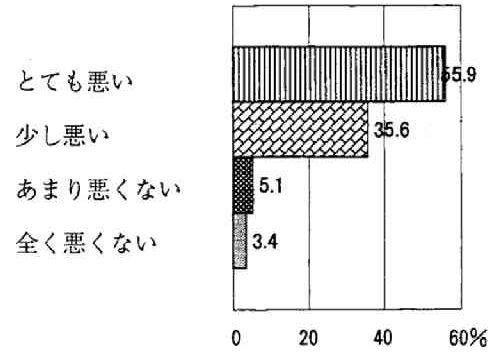


図4　他人の傘を黙って利用することを、あなたはどう思いますか。

(5)　ところで、あなたは他人の傘を黙って利用したことがありますか。(図5参照)

「よくある」「たまにある」を合わせると、26.3%の生徒が、他人の傘を黙って使っている。また、前問とのクロス集計で分析すると、「前問で悪いと思っているのに他人の傘を『よく』または『たまに』利用した」生徒が20.7%になっている。大部分の生徒は規範意識をもっているが、自分が困ったりした場合には、自分本位に行動する傾向があることが伺える。

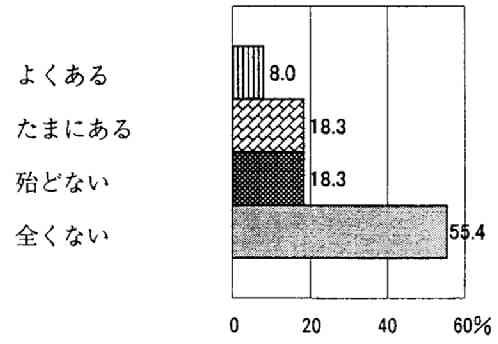


図5　あなたは他人の傘を黙って利用したことがありますか。

(6)　近くの席の人が学校を一週間休んだら、あなたはどうしますか。(図6参照)

「別に何とも思わない」「その他」を除く81.6%の生徒が何らかの関心をもっている。しかし、その中の35.9%の生徒は関心をもっているが、具体的な行動をとっていない。さらに、15.4%の生徒が無関心であり、ホームルーム集団内での人間関係の希薄さが伺える。

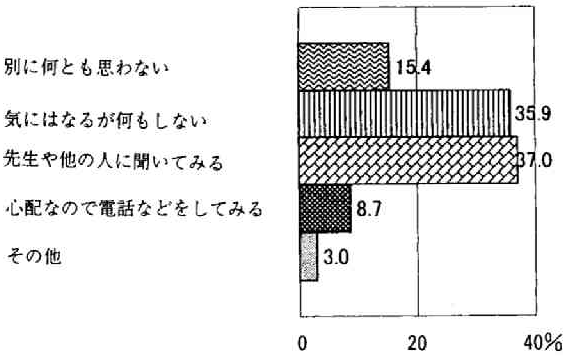


図6　近くの席の人が学校を一週間休んだら、あなたはどうしますか。

(7) 班の中に、いつも掃除をしない人がいたら、あなたはどうしますか。(図7参照)

「気にせず掃除をする」と回答している生徒が45.3%いる。このことは、他人の行為や考え方に対して、おかしいと思ったことを素直に言えなかったり、他人とかかわることを煩わしく感じているからと考えられる。又、「自分もさぼる」と回答している生徒が20.9%もいる。このことから、集団生活の充実や向上を図るよりは、自分本位で安易な生活をしていこうとする姿勢があるのではないかと考えられる。

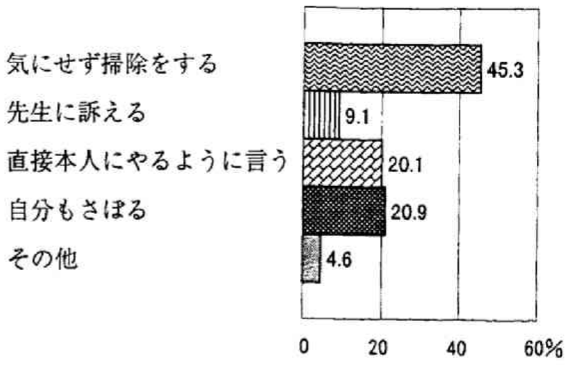


図7 いつも掃除をしない人がいたら、あなたはどうしますか。

2 集団活動の経験について

生徒がどのような集団活動の体験をもっているか。又、学校行事へどのように参加したかについて、その実態を調査した。以下がその回答結果である。

(8) あなたは小・中学校時代に、どのようなことで多く遊びましたか。多かったことを2つ挙げて下さい。(図8参照)

「野球やサッカー」「魚釣りや昆虫採取」「缶蹴りや鬼ごっこ」など、主に他者とかかわりながら自然体験や感動経験をした生徒が41.4%いる。一方で、「ファミコンやコンピュータゲーム」「雑誌や漫画」「ビデオやテレビ」などの体験をした生徒が46.2%いる。このことから、生徒達が集団遊びから一人遊びをすることが増加してきていると考えられる。

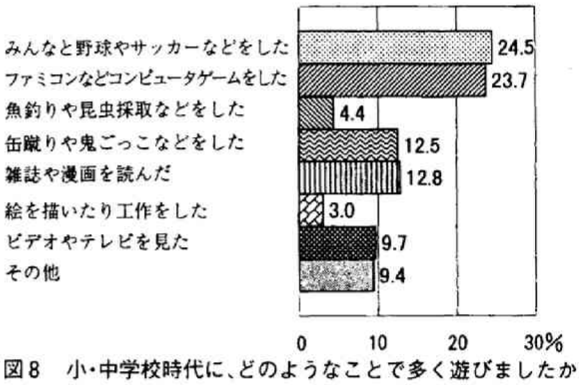


図8 小・中学校時代に、どのようなことで多く遊びましたか。

(9) 楽しい思い出となっている学校行事に、どのように参加しましたか。(図9参照)

「積極的に参加した」と回答している生徒が53.5%と半数以上いる。一方で、「与えられたことだけした」「仕方なく参加した」を合わせると43.5%の生徒が、学校行事に楽しさを感じながらも、消極的にしか参加していない様子が伺える。このことから、学校行事を計画するに当たっては、生徒一人一人に目的意識をもたせ、役割を分担し合い、仲間の想いや願いを実現していける魅力ある行事にしていく必要があると考えられる。

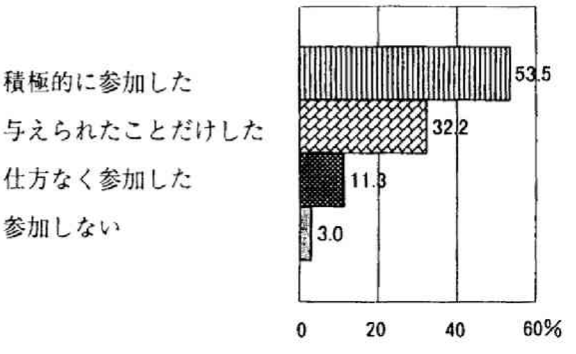


図9 楽しい思い出となっている学校行事に、どのように参加しましたか。

(10) あなたは小・中学校時代を含めて学校以外の地域活動で、どのような活動に参加したことがありますか。(図10参照)

「参加したことがない」と回答している生徒が41.9%いる。このことから、生徒には地域活動に参加する機会がなかったり、興味・関心がもてなかったためと考えられる。地域活動へのきっかけがあれば、多くの生徒が関心を示すと思われる。

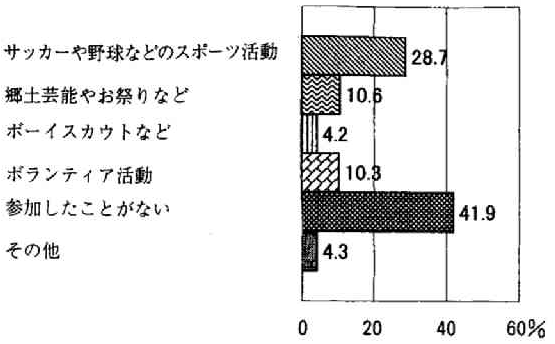


図10 学校以外の地域活動で、どのような活動に参加したことがありますか。

3 課題解決能力について

生徒個人あるいはその集団が抱えている課題を、どのようにして解決をしようとしているか調査した。以下がその回答結果である。

(11) 現在あなたが勉強以外で、悩みや不安に思っていることは何ですか。(図11参照)

「ない」を除くと84.3%の生徒がさまざまな悩みや不安をもっている。特に、「進路について」と回答している生徒が40.1%もいる。生徒は、自己の将来に夢や希望を抱きながらも、その実現に向けて不安や悩みをもっていると考えられる。また、「対人関係について」と回答している生徒が15.3%いる。これらの生徒には、集団の中で望ましい人間関係を形成できるよう指導していくことが大切である。

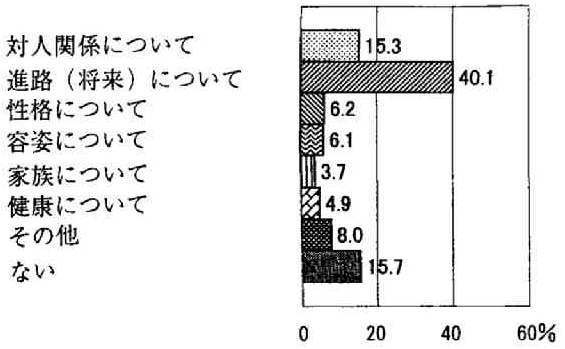


図11 現在あなたが勉強以外で、悩みや不安に思っていることは何ですか。

(12) あなたは不安や悩みでイライラしたとき、どうしますか。(図12参照)

71.3%の生徒が、「スポーツや趣味」「我慢する」「弱音や愚痴を聞いてもらう」ことで不安や悩みを解決しようとしている。一方で、19.3%の生徒が、「人や物にあたる」「飲酒や喫煙などをする」と自分が苦しい局面で、反社会的な行為で欲求不満を解消しようとしている。
(40人学級で7.7人に相当する)

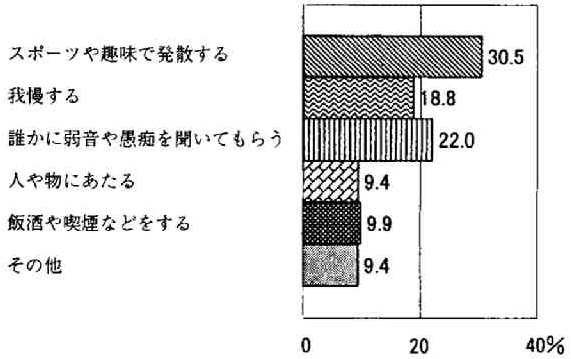


図12 あなたは不安や悩みでイライラしたとき、どうしますか。

⑬　あなたは物事が思いどおりにいかなかったとき、どうしますか。（図13参照）

「最後まで頑張る」「とりあえず頑張ってみる」を合わせると、82.6%の生徒が、前向きな姿勢で課題を解決していこうとしていることが伺える。しかし、「とりあえず頑張ってみる」と回答した生徒の中には、少しやってみてあきらめてしまうものも多くいると考えられる。又、最初から「あきらめる」と回答している生徒が15.5%もおり、課題解決を簡単にあきらめていると考えられる。

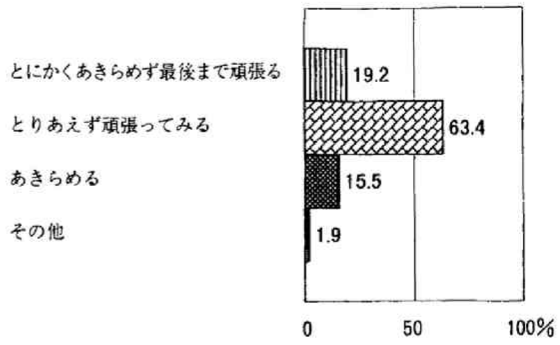


図13　あなたは物事が思いどおりにいかなかったとき、どうしますか。

⑭　同じホームルームで、友達以外の生徒がいじめられているとしたら、あなたはどうしますか。（図14参照）

いじめをなくしていこうと行動する生徒が37.7%いる。一方で、「関係ない」「自分がいじめられないように」を合わせると44.2%の生徒が、自分がいじめの対象でなければ他人のことにはかかわらないなどと自分本位に考えていることが伺える。

ホームルーム内で起こるさまざまな生活上の問題を適切に解決しながら、楽しく豊かな集団を形成できる力をはぐくむことが必要であると考えられる。

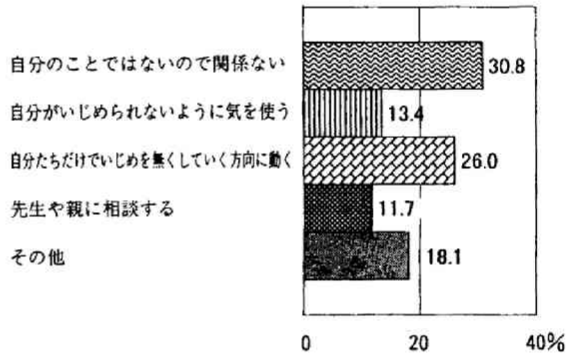


図14　同じホームルームで、友達以外の生徒がいじめられているとしたらあなたはどうしますか

⑮　ホームルームで、文化祭の企画について話し合ったが、意見が出ず、担任の先生によって決められたとしたら、あなたはどうしますか。（図15参照）

「先生だから」、「面倒がなくて助かる」「別に何とも思わない」「内容が良ければよい」を合わせると76.6%の生徒が、教師によって決められることに問題を感じていない。このことは、前問の結果と同様、生徒の問題解決能力、物事に意欲的に取り組む姿勢、よりよいものを作り出していこうとする意欲などが低下していることに起因していると考えられる。

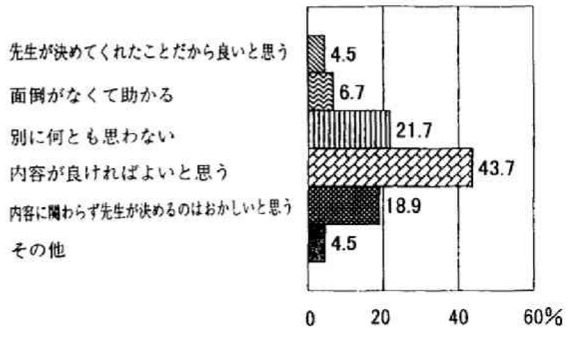


図15　文化祭の企画を担任の先生によって決められたとしたらあなたはどうしますか

Ⅲ　調査結果に基づいた考察と提言

以上のアンケートの分析結果を考察すると、以下の３点にまとめられる。

1　広く浅い交友関係しかもたない生徒が多い。

家族やホームルームの仲間との関係を含めて人間関係が希薄である。広く浅い交友関係しかもたない生徒が多い。生徒の行動は、その場の欲求に支配された自己中心的なものが目立つ。従って、自分を理解しないし、他者と分かり合えないで、自分の感情のままに行動する生徒が少なくない。

2　集団活動の経験が少ない生徒が多い。

テレビやファミコンなどでかなりの時間をとり、疑似体験や間接体験が多くなっている。一方で、生活体験や自然・社会体験などのさまざまな活動が少なくなっている。その結果として、人間関係を作る力が弱く、社会性の不足している生徒が増加していると考えられる。

3　課題を発見し、解決する能力が発揮できていない生徒が多い。

自ら課題を発見し、意欲的に課題を解決する力や自己を生かす能力が発揮できていない生徒が多い。これは、学習が受け身で、覚えることは得意だが、自ら調べ判断し、自分なりの考えをもち、それを表現する力が十分ではないことに原因があると思われる。

以上の３点の考察から、一人一人の生徒の「生きる力」をはぐくむための集団活動を実践するに当たって、その教育活動の柱を以下にまとめて提言した。

1　よりよい人間関係を作り出すための指導の工夫

生徒が互いに人格を尊重し合い、集団の目標や規範を設定し、互いに協力し合う望ましい人間関係を築くことが大切である。そして、生徒が互いに理解し合い、高め合いながら、他者の立場を尊重し、自己が認められていることを実感できたとき、思いやりの心がはぐくまれる。その中で、それぞれの生徒が全人的な発達を遂げることのできる集団活動を工夫する。

2　体験を積み重ねる指導の工夫

生徒の個性を尊重しながら、主体的に物事に取り組む集団活動の体験を積み、自己の役割を遂行させる。地域社会との連携を図りながら、生活体験や自然・社会体験などの活動を通して、生徒の意欲を引き出すために「達成感・成就感」の得られる活動を工夫する。また、個が集団を育て、集団が個を育てる集団活動を目指し、その核となるリーダーの育成を図る。

3　自己を生かし、課題を発見し、解決する力をはぐくませる指導の工夫

人とのかかわりを通して、人間としての在り方生き方の自覚を深め、自己を生かす能力を養う指導を工夫する。さらに、自己を生かすなかで、生徒個々又は集団が直面している課題に積極的に対応し、充実した生活を送れるなど自己実現を図るための指導を工夫する。

Ⅳ　実践事例

1　ホームルーム活動　－自己理解を深める指導の工夫－

(1)　ねらい

本校の生徒を見ると、「達成意欲」や「課題認識力」の低下などを強く感じる。担任が生徒と個人面談をするなかで、多くの生徒が将来への夢や希望を語ってくれるが、最後に「でも無理だし」「どうせ～」などの言葉が口をついてくる。これから可能性がいくらでも広げられる時期であるにもかかわらず、自分からあきらめてしまっている傾向が伺える。

生徒たちは学校生活のなかで、社会で生きていくために必要な基礎・基本を身に付けるとともに、個性を見い出し、自分にふさわしい生き方を選択していく「自分さがしの旅」をする必要がある。課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、自主的に行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、すなわち『生きる力』をはぐくむことが大切である。

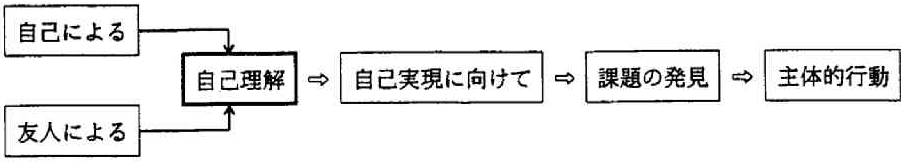
この『生きる力』をはぐくむ指導の第一歩として、自己理解が重要であると考えた。自分の良い面や持ち味に気付くことが、達成意欲を高めることにつながる。自己を理解するには、自らが自分自身に目を向けること、また集団活動を通して、自分自身の中にあるまだ知らない自分に気付いていくことが大切である。

本事例では、ホームルーム活動の中で、「自分自身の目」と「友人からの目」を通して自己を見つめ、「自分とは何か」を探り、自己実現へとつなげていくことをねらいとした。

(2)　対　象　　1年生　37名（男子21名、女子16名）

(3)　方　法

ホームルーム活動指導計画のもと、「自分とは何か」「自分の持ち味は」「何をやりたいのか」「やりがいを感じるには」などを考え、自己を見つめさせる。



【自己理解の深化】

ア　過去の自分を振り返る（自分に贈る手紙）

小・中学生の自分を振り返るために、当時の夢や希望、興味・関心、思い出など箇条書きにする。（表１参照）

書きやすいように、視点となる項目を何点か挙げておく。

過去の自分を振り返ることで、過去の自己を理解する。

表１　過去の自分を振り返る

過去の自分を振り返る

今日は、過去の自分を振り返り、小学校、中学校時代の自分に対して、ほめてあげたいことや言っておきたいことなど（良い点、反省点）を箇条書きにして下さい。

【小学校時代の自分に贈る手紙】

1．（友人関係について）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2．（ホームルームの中での自分について）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

10．＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

イ　今の自分を見つめる

①　自己イメージの明確化

「私は～である」の文章を書く。（表２参照）

このとき、自分の良さや個性、学業成績、夢中になっていること、生活態度、友人関係、家族の願い、悩み・苦しみなどに関して書けるように、視点となる項目を何点か挙げておく。

表２　自己イメージの明確化

自己のイメージを明確にしよう

自分の良さや個性、学業成績、夢中になっていること、生活態度、友人関係、家族の願い、悩み・苦しみなどについて考えてみよう。
「私は～である。」という形式で文章を１０個作ってみよう。

1．（ホームルームの中の自分）
私は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
2．（文化祭への取組み）
私は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

10．（自分の良いところ）
私は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

現在の自分を振り返ることで、現在の自己を理解する。

②　過去と現在の比較

「過去の自分を振り返る」と「自己イメージの明確化」から、過去と現在の自分を比較してみて、成長してきた点、大切にしていきたい点や変えていきたい点などを考え、書く。（表３参照）

表３　過去と現在の比較

自分を見つめる

「過去の自分を振り返る」と「自己のイメージを明確にしよう」を読んで、感じたことや思いついたことをまとめてみよう。

1．「変わらなかった」と思ったことは何ですか。
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
2．「変わった」「成長した」と思ったことは何ですか。
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
3．これから変えていきたいことは何ですか。
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
4．これからも大切にしていきたいことは何ですか。
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【相互評価に基づく自己理解】

ウ　ホームルームの中で自己を見つめる

①　友達からの手紙

ホームルームの全員が、自分以外の生徒の良い点を１つずつ書く。（表４参照）

そのために、担任は、良いところを探す期間を設け、意識的にホームルームの友人に目を向けさせる。例えば、文化祭の時期に実施することで、行事を通して普段とは違う友人の一面を発見しやすくする。

また、担任は記入された内容を確認し、人権上の配慮をしてから生徒一人一人の個人カード（友人からの手紙）を作り、各自が他の生徒からの声を聞けるようにする。

表４　友達からの手紙

友人へのメッセージ

ホームルームの仲間一人一人に、本人の良い点や憧れている点を書いて下さい。
ホームルーム活動、学校行事、クラブ活動、委員会活動などを見て気が付いたことを書いてみよう。
【書き方】　必ず具体的な理由を書いて下さい。
（例）

○○太郎	文化祭の取組みを見て、責任感が強く、積極的な人だと思った。

【注意点】　身体・容姿など外見的なことではなく、性格や能力、考え方や行動の取り方などの内面的なものに目を向けること。
欠点や悪い点、中傷することなどは書かないこと。
担任が、これをもとに個人カードを作成します。

○○一郎	
△△花子	
○△丸子	
□□太郎	

② 自分について考える

「今の自分を見つめる」（自分の目）と「ホームルームの中で自己を見つめる」（友人の目）から自分の良さや持ち味に気付くとともに、自己の課題やこれからの行動などについて考える。（表5参照）

③ グループでの話合い

「友人の目」から気付いた面（良い点）を発表するとともに、「自分を見つめること」や「友人を理解しようとすること」について考え、話し合う。

④ 発　表

今回の『自分さがしの旅』を行っていくなかで、感じたことや考えたこと、グループで話し合ったことなどをまとめて発表する。

表5　自分について考える

自分を考える

次の点について考えてみよう。

1．友人から気付かされた自分の良い点

2．自分の良い点や持ち味

3．大切にしていきたいこと

4．「自分の持ち味」をどのように生かしていきたいか。

5．「自分に目を向ける」ことについて

6．「友人に目を向け、理解する」ことについて

(4) 生徒の感想

- どんなときも、相手の立場も考えていこうと思った。
- 自分の考えをもち、相手の意見も取り入れて、より良く発展させていきたい。
- ほんの少しだけど自分を好きになれた気がする。
- 日頃、話すことのなかった人と身近になった気がした。
- 友達から自分がもっていないものを見つけ、吸収していきたい。

(5) 結果と考察

本事例では、自己理解を深めるために、小・中学生の自分を振り返らせながら、現在の自分と比較させた。生徒は、自分の良さを文章化することで自分を見つめることができた。

しかし、生徒の中には、自分を省みることに慣れていなかったため、十分に見つめることができないものもいた。そこで、文化祭前の1週間を使って、ホームルームの仲間の良い点を探させる試みを行った。そして、担任は、探させた良い点を「友人からの手紙」として本人に渡した。ある生徒はこの手紙を読んで、「俺ってこんな人。嬉しくなっちゃう。」と、自分では気が付かなかった「新たな自分」を知り、喜びを感じるとともに、それを大切にしていきたいと感想を述べていた。このことから、自分だけでは自己を見つめるには限界があり、ホームルーム集団のなかで、他の生徒から得た「新たな自分」を知ることが、真の自己理解につながると言える。

今後も、生徒に自己理解を一層深めさせ、自己の良さや持ち味に気が付かせて自信をもたせる必要がある。このために、教師は、計画的・継続的なホームルーム活動を行っていくことが大切である。

2　ホームルーム活動ー自ら考え、話合いを通して生きる力をはぐくむ指導の工夫ー

(1)　ねらい

本校は全寮制の男子高校である。寮では生育や家庭環境等が全く異なった生徒たちが寝食をともにして共同生活を送っている。そこでは自己中心的な考え方を抑え、自己を律して友人と協調し、友人を思いやる心が必要である。

しかし、現状では非常に短絡的な考え方の生徒が多い。物事を筋道立てて考えることが苦手であり、目の前の楽しさを追って生活しているように思える。

本来、生徒はお互いに切磋琢磨し、自己を高め、集団への帰属意識をもち、日々充実した生活を送ることが大切である。そのためには、自ら考え、判断し、行動し、さまざまな課題を主体的に解決できる力を身に付けさせることが重要である。

本事例では、生徒一人一人が自己を顧みて自己理解を図ること、集団での話合いを通して自己理解を深化させること、自らの考えを相手に伝え、互いに確かめ合える豊かな人間性をはぐくませることをねらいとした。

(2)　対　象　　1年生男子19名／ホームルーム　(全校生徒220名　1年生　64名)

(3)　方　法

ア　「生活の記録簿」を通して、自己を顧みて、自ら考える態度を育成する

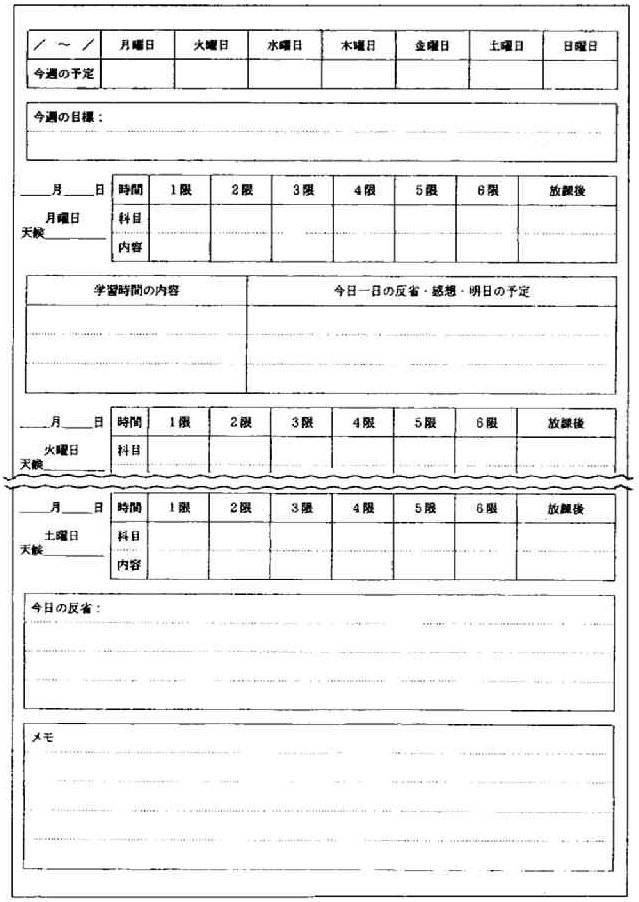
一日の自分の生活を顧みるために、表1「生活の記録簿」を活用している。日曜日の消灯前にその週の予定、目標と翌日の時間割りを書かせ、生活と学習への目的をもたせるように工夫している。また、毎日、その日の授業の内容、一日の反省や感想を書かせ、自らが課題を見つけたり、考えたりできるようにしている。

生徒は、土曜日にその週の反省を記入した後、「生活の記録簿」を班担当の教師に提出する。そして、日曜日に班担当の教師はコメントを記入して返却する。

コメントの内容は、生徒自身が日々の目標をもち、それに向かって頑張れるように励ましの言葉を多くする。

また「生活の記録簿」の用紙を綴じる個人ファイルを作り、個人面談の際に自己を顧みさせる材料として活用する。同時に「これだけ続けることができた」という成就感を味わえるようにしている。

表1　「生活の記録簿」



／ ～ ／	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
今週の予定							

今週の目標：

＿月＿日 月曜日 天候＿＿	時間	1限	2限	3限	4限	5限	6限	放課後
	科目							
	内容							

学習時間の内容	今日一日の反省・感想・明日の予定

＿月＿日 火曜日 天候＿＿	時間	1限	2限	3限	4限	5限	6限	放課後
	科目							

＿月＿日 土曜日 天候＿＿	時間	1限	2限	3限	4限	5限	6限	放課後
	科目							
	内容							

今日の反省：

メモ

イ　話合いを通して人間関係を作る態度や能力を育成する

話合いの中で、自らの考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりして、互いの考えを共有し合うことは、自己理解を深め、人間としての望ましい在り方生き方を考える上で大切である。そのためには、集団の中で自分にとって「意味ある他者」との人間関係を作ることが重要である。

そこで、表２の指導展開例をもとに、生徒一人一人が、学期の始めに決めた目標や「生活の記録簿」を活用して話し合うことで、集団の一員としての在るべき姿を考えさせる。

表２「指導展開例（２時間授業）」

時間		生徒の活動	教師の支援	使用するもの
導入	５分	・活動の内容、及び目的を聞く。	・今日の活動及び目的についての説明をする。「残り半年を有意義に過ごすために」	・ホワイトボード
	５分	・１９名の生徒が４つの班に分かれ、まとめ役を決める。	・活発な意見が出るように班を分ける。	
展開	１０分	・自己開示を行うために、１人ずつ自分の「生活の記録簿」を見ながら、２学期始めに立てた学習と生活の目標を班員に伝える。そして、自分自身が現在どの程度目標が達成できているか述べる。 ・「○○高生としての在るべき姿」とはどういうことかについて自分の考えや意見を述べる。	・生徒一人の話す時間を決める。 ・他者に左右されず、自分の考えを自由に話すよう助言する。 ・他者の意見の批判はしないように助言する。	・「生活の記録簿」 ・２学期の目標一覧 ・生徒手帳　等
	１０分	・班内で話し合ったことから、「○○高生としての在るべき姿」とはどういうことか思いつくままにメモ用紙に記入していく。（１人１０枚以上を目指す）	・生徒が考えたり、感じたりしたことをできるだけ多くのメモ用紙に記入するように助言する。	・メモ用紙（タッグシール３００枚） ・鉛筆、消しゴム
	２０分	・班の中で出されたメモ用紙の同じ内容や類似した内容を集める。 ・集めた内容をクリップで束ねて、これらの内容を簡単にまとめた「見出し」を赤マジックで書く。 ・これ以上まとめられなくなるまで、上記の作業を繰り返す。	・集める内容をよく吟味するよう助言する。 ・「見出し」にメモ用紙の内容が必ず含まれるようにし、その文章表現を十分に吟味するよう助言する。 ・どのグループにも入らない内容は集めておくように指示する。	・クリップ（多数） ・輪ゴム（多数） ・赤マジック（４）
展開	３０分	・「見出し」の相互関係を考え、分かりやすく模造紙に配置する。（構造化） ・構造図が主張していることを適切な文章で表現する。	・生徒が「見出し」を配置し、構造化する際、生徒の考えがまとまるように助言する。	・模造紙 ・色マジック
まとめ	１５分	・班ごとに発表する。 ・各班から出された意見から、ホームルームの目標と具体的な取組みをまとめる。	・各班の発表時間を決める。 ・構造図から分かったことを具体的に話すように助言する。 ・班の構造図をホームルームの構造図にまとめるよう助言する	・指示棒
	５分	・生徒一人一人の目標と取組みを書く。	・話し合いの内容が具体的に生かされるよう助言する。	

(4) 結果と考察

4月当初は、「生活の記録簿」を毎日継続的に記録する生徒が少なかった。しかし面談の際に「生活の記録簿」の意味を説明していくことで、生徒自身が自己を顧みることの大切さを理解していき、継続的に記入する生徒が増えていった。その記述内容から生徒が徐々に自己理解を図っていく様子が伺われた。特に、週の目標を具体的にもつことから日々の生活に前向きに取り組む姿勢が伺われるようになった。

そこで、さらに生徒一人一人が自己理解を深化させ、集団活動を通して豊かな人間性をはぐくませるために話合いを行った。話合いを始めるに当たって、話合いに慣れていない集団では班分けとまとめ役の生徒の決め方に工夫をする必要があった。今回は教師が班分けとまとめ役の生徒を決めた。その結果、各作業を活発に進めることができた。

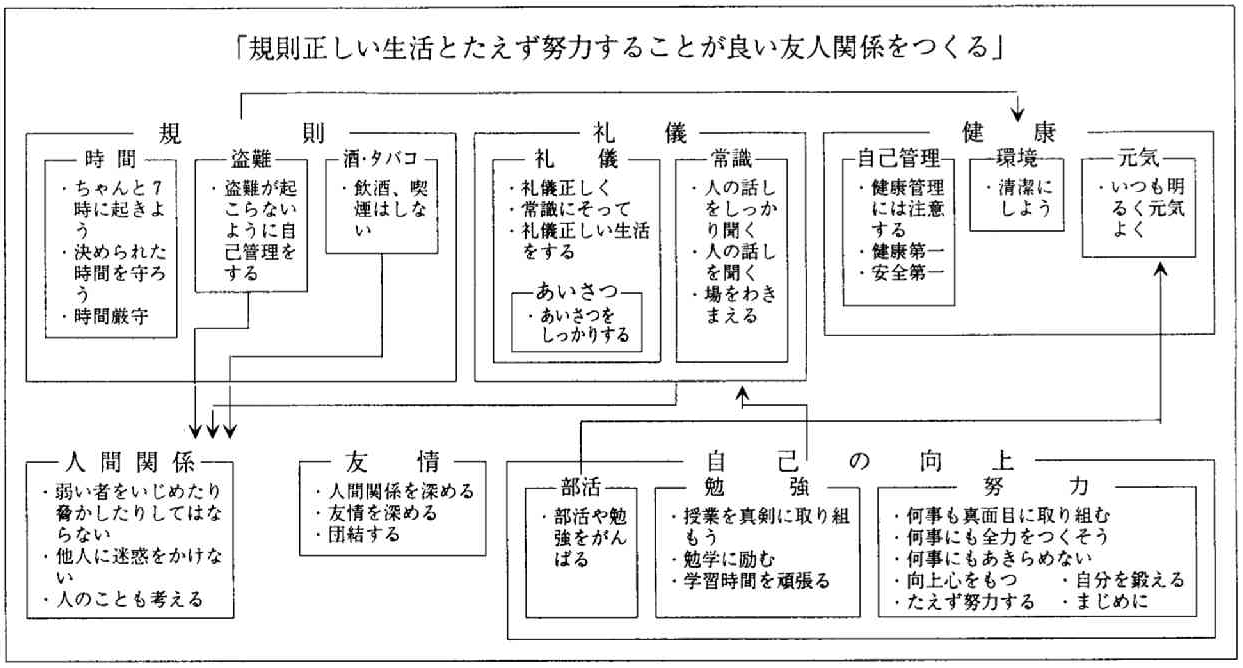


図1「○○高生としての在るべき姿」の構造図

生徒が苦労していた点は、話合いで出てきた自分たちの意見を構造化することであった。(図1参照) メモ用紙をどのようにまとめるべきか苦労していた。教師は生徒が困っているときは「このようにも考えられるのでは？」などと臨機応変に適切な助言を行うことが大切であると感じた。

話合いの後で、「自分自身で自己を振り返り、今後の在り方を考えることができたか？」というアンケートでは、19名中16名の生徒が「できた」と回答している。このことからも自己理解が深められたと考えられる。また、感想には「他の班の意見を聞けて良かった」「みんなが真面目に考えていることが分かった」ということが書かれていた。友人を批判しないことによって、友人の意見を聞く態度がはぐくまれたと思われる。また、仲間の考えが書かれているメモ用紙を構造化する過程で、お互いの考えを確かめ合い、協力して構造図を作成し合うことから、豊かな人間性をはぐくみ、物事を筋道立てて考えようとするきっかけが生まれた。

今後も、このような取組みを計画的・継続的に行うことで、生徒に様々な課題を主体的に解決していける力を身に付けさせることができると思った。

3　ホームルーム活動ー生きる力をはぐくむ文化祭ステージ指導の工夫ー

(1)　ねらい

本校は文化祭や体育祭を中心とした学校行事に力を入れており、地域社会から「行事の○高」と呼ばれている。文化祭はホームルーム単位で参加することになっており、生徒にとって日常の学校生活では目を向けにくい「集団の中での個人の存在」を自覚するよい機会となっている。

しかし、3年生になっても学校生活の中で生徒同士の人間関係の希薄さを感じる場面が多くある。それは、小グループの中でさえも人からどう思われるかを絶えず気にしていて、本音を言えないことである。

そこで、文化祭という学校行事への取組みを通して、生徒一人一人がより深くホームルームの仲間とかかわりながら、互いが本音を言い合うとともに、協調性や責任感、積極性などの「生きる力」を引き出すことをねらいとしたホームルーム活動を計画した。

ホームルーム指導に当たり、次の3点を指導の留意事項とした。

① 集団の中で、自分の存在価値を見い出させるようにすること
② 集団の中で、自分の役割を積極的に果たせるような場を設定すること
③ 「仲間の和」の大切さを深く実感できるような取組みにすること

(2)　対　象　　3年生　40名（男子21名　女子19名）

(3)　取組み

9月の文化祭に向けて、生徒たちは、高校生活最後の文化祭を「演劇」で参加することに決定した。

文化祭当日までの生徒の動きと教師の指導のポイントを右表にまとめた。(表1参照)

表1　文化祭までの生徒の動きと教師の指導ポイント

	生徒の動き	指導のポイント
5月初旬　LHR・～SHR	企画検討 (1)企画アンケート（集計・発表） (2)グループ別の話合い (3)提案理由の説明・採決	＊話し合いの雰囲気作り →アンケート雑談・班別討議
6月初旬	→演劇に決定、代表者の選出	＊良いものから学ぶ →記録ビデオ視聴（歴代3年生の企画紹介）
6月8日　体育祭		
6月初旬　LHR	作品の決定→「白い嵐」 演劇提案者が概要説明、採決	＊ホームルームから発信するメッセージは何か →テーマの洗い出し・選択
SHR	役割分担、作業内容を検討	
6月下旬～7月　放課後	ビデオ視聴→仮脚本作成	
7月上旬　終業式	脚本作り→代表者たちがビデオを見ながら作成 話し合い→メインテーマは何か（代表者、有志） 役割ごとに作業内容や費用、日程を具体的に検討	＊行事で燃えるために →本気で取り組み、本物をめざす／ホームルームの団結
夏季休業前半	人が集まらず、予定の練習、作業ができない日が続く	＊ホームルームの協力体制づくり →連絡ノート、生徒同志の連絡体制を確立
夏季休業後半	大道具作成などの作業が続く	
9月上旬	役者の練習開始、作業続く 合唱曲の選曲	＊新たな課題への取組み →良い劇をめざす共通理解の下、意見を発表しあう
中旬	リハーサルがうまく行かず、せりふ、大道具など手直し	
全日準備（2日間）	合唱練習、演技の練習 （演技の工夫、エキストラの練習、音響・照明とのタイミングあわせなど）	＊客観的立場で意見を述べる →ビデオ撮影
当日（9月21日）	午前　最後の確認→上演	＊取組みを振り返って →意欲、責任感、協調性についての自己理解 （作文、アンケート）
10月中旬　LHR	反省会	

ア　話し合いの雰囲気作り

担任は、生徒の自主的、実践的な活動を支援し、生徒自身による創意工夫を発揮させるために、生徒同士の話合いをしやすくする必要があると考えた。

そこで、ホームルームでの話合いの前に実行委員と打合わせを行い、次のような工夫を考えさせた。

① アンケート形式でのアイディア募集

② 同意見グループごとの話合い

③ 文化祭記録ビデオ等の視聴

④ ショートホームルームやホームルーム通信での話題提供

日常の学校生活のなかに早い時点から高校生活最後の「文化祭」という共通の話題があったことで、少しずつ「仲間の和」が広がったように感じられた。

イ 協力体制作り

夏季休業日中の準備活動は、初日こそ多くの生徒が集まったものの、すぐに人が集まらなくなり練習にならない日が続いた。「演劇を成功させる」という集団の目標を達成するためには、生徒各自が集団の規律を守り、互いに連帯し、協力し、各自の責任を果たしていくことが大切である。そこで、担任は実行委員と相談し、ホームルームの協力体制を作り、結束を高めるための工夫を考えさせた。

① **連絡ノートの活用**（表2参照）

② **背面黒板の利用**（表3参照）

③ **連絡網の整備**

連絡ノートには、その日の日誌として出欠の記録と活動内容及び明日の作業予定や仲間へのメッセージを記入した。このことによって、誰がいつきても作業に加われるようにした。（表2参照）

表2 連絡ノート（「音響」ノートの1ページ）

「音響」予定	記録・明日の予定・伝言
7/22 台本を見て、使いそうな音をピックアップ。 各自、音を探す。	意外といっぱいあって驚いた。 明日もピックアップ。 どこでどうやって探すんだ？（A）
7/23 ピックアップが終わり次第、本格的に音探し。	ピックアップ終了。これでいいか、演出に確認しといて。（S） やっぱ31日じゃないと無理。（F）
7/28 みんなで音を聞いて話合い。 明日、音のCDを購入。	効果音のCDはヘンなものもあるぞ！使える？（S） 雷はもっと迫力欲しい。（F）
7/29 図書館へ行き、音のCDを借りる。	図書館は便利だ。みんなでいけば、いっぱい借りられる。 行かれる人、募集！（A）
7/31 演出の確認、音の編集。	せっかく音をとっても使えないんじゃしょうがないぞ！ 通し稽古しないとわかんないらしい。（S）

背面黒板は、ホームルーム全体への連絡用の伝言板として活用した。（表3参照）

さらに、数日顔を出さない生徒には、同じ係の生徒が連絡をとるようにした。生徒たちは、参加できない明確な理由を知れば、案外素直に欠席することを受け入れていた。

表3 ある日の背面黒板

＜今日やること＞	今日の連絡
役者・・通し稽古2回程度 演出・・照明、音響も参加で 小道具・・イルカづくり 大道具・・買い出し組（3人）と作業組に別れて のぼり・・ひたすら作業 ポスター・・すごいのができるぞ！	
	今後の予定
＜お願い！＞ 綿持ってきて。（のぼり係） Tシャツは無地のもの。（衣装係）	

③ 新たな課題への取組み

5月から文化祭に向けて、生徒は自発的に創意工夫をし、互いに協力して活動を行ってきた。そこで、担任は、生徒自身がこれまでの成長を振り返り、さらに自己を一層伸長させることが大切であると考えた。そして、2学期最初のロングホームルームで、生徒一人一人に「演劇を成功させるために、自分は何をすべきか」を考えさせ、目標と各自の役割を再確認させた。生徒はもともと自分が希望した役割だけに、このことによって、目標がはっきりして作業や練習の雰囲気が一層よくなった。具体的には、自分の役割を早く終えたら、他の生徒の作業を手伝ったり、友人の演技にアドバイスしたりする生徒がでてきた。

さらに、ロングホームルームの話合いの中で、生徒の中から「(演劇をよりよくするために)劇の最後に合唱したい」という提案が出された。しかし、他の生徒から「時間がないのに、なぜやるのか」「練習不足になり、劇そのものが失敗してしまう」などの多くの反対意見が出され、激論となった。生徒たちは賛成、反対それぞれの立場ではっきりと意見を述べあった。これまでは対立を避ける傾向があったが、生徒各自に「最後の文化祭を成功させたい」という強い目標があったため、互いが本音で話し合いをして、互いの主張の違いを認め合い、よりよい解決方法を探すことにつながった。結局、「最後は全員で歌って舞台を締めくくろう」と意見がまとまり、ホームルームの力を結集して、新たな課題に全員で挑戦することになった。

(4) 生徒の感想

○ 最初から「そんなのできない」と決めつけるのではなく、最後まで真剣に取り組めばよりよいものができると思う。(女子・指揮者)

○ 役割はそれぞれ違っても、一つのステージを作り上げるためにみんなで「協力すること」を学んだ。(女子・大道具係)

○ 学んだことはまとまるということの大変さ。得たものは大変だった分の大きな感動だと思う。(男子・照明係)

○ 大きな立場じゃなくたって役に立てることが分かったので、実社会の中でも学歴とか地位に関係なく、一生懸命やる。(男子・ポスター係)

○ 今回の経験は、辛いとき、苦しいときに思い出せば元気になれそうな気がする。集団で行動するときの自分の役割、立場が分かったと思う。(女子・小道具係)

(5) 結果と考察

40人の力を結集したステージは、「グランプリ」という評価を得ることができた。これは、演技がうまくできたということ以上に、準備の過程から生徒一人一人が努力し、成長した成果である。例えば、リーダーの一人である生徒は、役割分担ごとの話合いに参加し、各係のやるべきことをすべて把握し、全体に指示を出せるようになっていった。また、大道具係の生徒は、夏季休業日中もずっと自分の作業を責任もって続けるとともに、他の係の仕事も率先して手伝っていた。生徒各自が自分のことだけではなく、周囲をみる余裕、今何をすべきかを判断する力がついてきた現れであると思う。

文化祭後のアンケートには、「協力すること」「まとまること」の難しさと、自己の役割を果たしたときの成就感や達成感について数多く書かれてあった。生徒は、集団活動を通して自己の力を十分発揮し、個々の力を集団の力としてまとめていくことで、大きな感動と深い充実感を味わい、また、自信をもつことができたと考えられる。そして、その自信が、一人一人の生徒をさらに成長させ、将来の自己実現に向けた大きな力になると思う。教師は、今後もさまざまなホームルーム活動を通して、生徒が本来もっている力を引き出すような実践を行っていくことが重要であると実感した。

4　学校行事ー地域社会との連携・協力を図った集団活動の指導ー

(1)　ねらい

アンケートの調査結果によると、約半数の生徒が小・中学生時代の思い出として、「ファミコンなどゲームで遊んだ」、「雑誌やマンガを読んだ」、「ビデオ・テレビを見た」などを挙げている。また、地域活動やボランティア活動については4割を超える生徒が「参加したことがない」と答えていた。

本校は離島に位置し、在校生のおよそ3分の2が寄宿舎で生活している。そのため、本校の多くの生徒も地域社会に関心をもつこともなく、学校と寄宿舎での生活に終始しかねない状況にある。また、自宅からの通学生も都会への憧れが強く、自ら住む地域社会に関心や理解を示すこともなく三年間を過ごす傾向が見られる。

このような現状のなかで、生徒一人一人が「生きる力」を身に付けるためには、地域での自然体験や社会体験などのさまざまな活動を体験させることが重要であると考えた。

そこで、本事例では、次の3点をねらいとして実践を行った。

① 学校と地域社会が連携を図り、学校教育活動に地域社会の教育力を取り入れること
② 共通の興味・関心をもった集団を組織し、生徒の主体的・自主的な活動を促すこと
③ 勤労・ボランティア体験を通して、人間としての在り方生き方や自己の進路ついての考察を深めさせること

(2)　対　象　2年生　49名（男子32名　女子17名）　3年生　54名（男子31名　女子23名）

(3)　方　法

生徒一人一人が興味・関心に基づいて選択した近在の事業所・施設の活動を一日実体験する学校行事「体験学習日」を実施する。

ア　活動場所・内容の決定

① 活動場所については、生徒の安全、活動内容、進路意識等の観点を踏まえながら検討し、地域社会へ協力を依頼する。
② 生徒には、二学期当初のホームルームで「体験学習日」の目的と具体的な活動場所・内容などを周知させる。（表1：活動場所一覧　参照）
③ 10日間程度の期間を設定して生徒の興味・関心から活動希望場所を考えさせる。
④ 活動場所の希望調査を行い、活動場所を決定する。その際、活動目的を明確にするために調査用紙に希望理由・目的を記入させる。また、受入れ事業所の施設や人員の都合上、多少の調整を行う。
⑤ その後、各事業所の担当者と数回の打合わせを行い活動内容・スケジュールなど事業所ごとの具体的な指導計画を立てる。

イ　事前学習

生徒一人一人の目的意識や活動場所についての認識を高めるために、活動場所ごとの事前学習を行う。引率教師は活動に際しての留意点、活動内容、スケジュール等の確認を十分に行う。又、生徒は活動記録用紙に各人の活動目標をまとめて発表する。

表１：活動場所一覧

事業所・施設	人数	活動内容など
①町立老人ホーム	12	散歩付き添い、食事介護 清掃活動
②在宅介護 サービスセンター	5	お年寄りのサークル活動参加、入浴補助（介護・送迎）
③福祉施設	10	環境整備作業（草取り）
④北部診療所	3	看護補助、施設見学など
⑤○○汽船	4	乗・下船客誘導整理、乗船名簿回収、売店補助
⑥☆☆般空営業所	6	荷物搬入・受け渡し、機内清掃、施設見学、予約業務
⑦△△温泉ホテル	10	配下膳、皿洗い、客室清掃・設営、風呂掃除
⑧◇◇旅館	11	フロント、レストラン、売店、客室業務、ゴルフ施設
⑨◎◎保育所	5	園児指導補佐、給食指導
⑩※※※保育園	4	園児指導補佐、給食指導
⑪郵便局	3	郵便業務全般、講義
⑫栽培漁業センター	12	種苗飼育作業、水槽などの清掃作業
⑬リス村	12	飼育及び清掃作業、設営
⑭動物園公園	6	飼育、清掃、健康管理作業

ウ　当日の体制と留意事項

実施に当たっては、以下のような当日の体制と留意点を事前に全教職員で確認する。

① 学校行事との位置付けから各事業所ごとに引率教師を配置し、学校に本部（教頭及び教師三名）を置く。

② 引率教師は、生徒の活動全体に目を配り、事故やけがのないように十分に配慮する。

③ 各事業所ごとに救急箱・ゴミ袋を用意し、昼食などのゴミはすべて持ち帰る。

④ 情報は本部に集中させ、具体的な指示や対応は本部が行う。万が一事故や問題が発生した場合の連絡の手順を確認する。又、活動内容やスケジュールに変更があった場合も必ず本部に連絡する。

⑤ 生徒の移動は安全面への配慮から、貸し切りバスを利用する。

エ　事後学習

活動後、生徒は活動記録用紙（図１参照）に活動内容や感想などをまとめる。引率教師も実際の活動や生徒の様子をまとめる。また、事業所の担当者から「体験学習日」への意見や感想を聞き、これを集約する。

次に、ロングホームルームで活動場所ごとに体験した内容についての発表をさせる。このことで、他の事業所で同級生がどのような活動や体験をしたかを聞くとともに地域社会への関心と理解を深めさせる。また、人間としての在り方生き方や自己の進路ついての考察を深めさせる。

(4)　結　果

当日は好天に恵まれた。普段より早い集合時間にもかかわらず、生徒は元気な顔で学校に集合した。生徒は貸し切りバス２台に分乗して活動場所に出かけた。活動中は事故もなく、全員の生徒が午後四時半に無事帰校した。生徒は疲労感の中にも充実した顔をしていた。校門から教室までの道のりは、体験したことを同級生や教師に嬉しそうに話す声であふれ返った。

ロングホームルームで、生徒は自分の体験してきた活動内容を一生懸命に発表した。そして、「来年は違うところに行くぞ」「来年も同じ所に行きたい」「１年の時からやって欲しかった」「年に２回くらいやって欲しい」などの生徒の感想が挙げられた。

ア　生徒の感想から

・施設見学が中心。島の医療の現状がよく分かって良かった。でも、もっと実際の活動をしたかった。将来、看護婦さんになりたいと強く思った。（診療所・２年女子）

・車椅子を押しての散歩と食事の手伝いは緊張した。最初はあまり行く気がしなくて、気が重かったけど、喜んでもらえるのが嬉しかった。普段お年寄りと接することが少なくて、お年寄りと話すことは難しかったけど、それでもいっぱい話して下さって今まで自分の知らないことも沢山聞くことができて良い体験だった。一日接して、お年寄りの方たちはとても淋しそうだった。もっと多くの人がお年寄りとたくさん話をすることが大切だと思った。
（老人ホーム・２年女子）

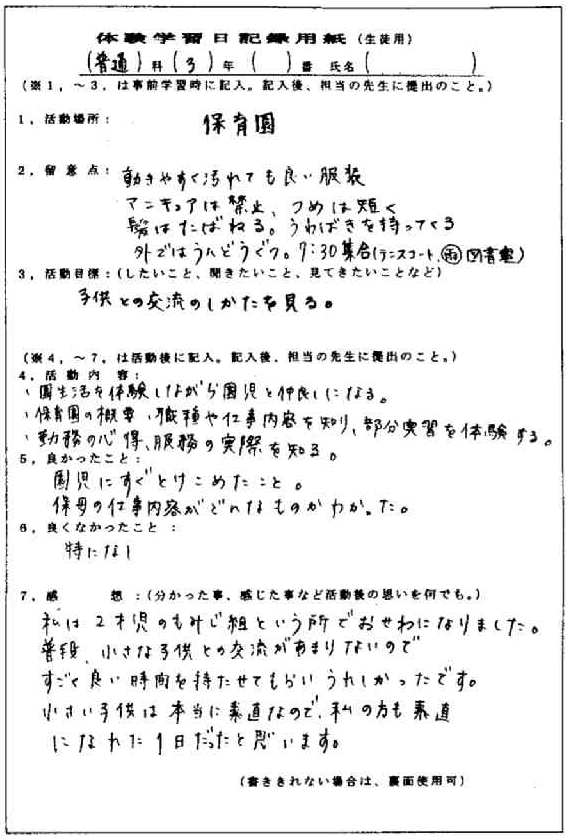

体験学習日記録用紙（生徒用）
（普通）科（3）年（　）番　氏名（　　）
（※1，～3．は事前学習時に記入。記入後、担当の先生に提出のこと。）
1．活動場所：　保育園
2．留意点：動きやすく汚れても良い服装
マニキュアは禁止、つめは短く
髪はたばねる。うわばきを持ってくる
外ではうんどうぐつ。9:30集合（ランニングシューズ、帽子、図書室）
3．活動目標：（したいこと、聞きたいこと、見てきたいことなど）
子供との交流のしかたを見る。
（※4．～7．は活動後に記入。記入後、担当の先生に提出のこと。）
4．活動内容：
・園生活を体験しながら園児と仲良くになる。
・保育園の概要・職種や仕事内容を知り、部分実習を体験する。
・勤務の心得、服務の実際を知る。
5．良かったこと：
園児にすぐとけこめたこと。
保母の仕事内容がどんなものかわかった。
6．良くなかったこと：
特になし
7．感想：（分かった事、感じた事など活動後の思いを何でも。）
私は２才児のもみじ組という所でおせわになりました。
普段、小さな子供との交流があまりないので
すごく良い時間を持たせてもらいうれしかったです。
小さい子供は本当に素直なので、私の方も素直
になれた１日だったと思います。
（書ききれない場合は、裏面使用可）

図　1

イ　事業所担当者から

・職場体験学習は中学校でも実施されているが、現在ではほとんどの生徒が進学しており、むしろ高校で実施する方がベストと思われる。できれば１・２年次に実施して欲しい。また、今回時間が短かったので、夏休みなどに２～３日程度実施してはどうか。（動物公園）

・将来目指す職業に触れることは大変良いことです。医療の現場は、守秘義務や医療法の問題もあって実体験をさせにくい点があり、今後どう取り組んでいくか現場として検討していきたい。地元の子供が将来島の医療に携わることを大いに期待しています。（診療所）

ウ　引率教師の報告から

・生徒に接客業やサービス業への意識が薄い。事前学習をもっと充実させるなど対策が必要である。バスの時間帯は調整の必要がある。（旅館業・水産科・３年担任）

・先方で資料を準備して頂くなど内容的にも大変充実していた。一日中園児の世話や講義と教材準備など生徒の感想は「疲れたー」の言葉が多かったが、園児との別れは辛そうで、一日素直な高校生だった。（保育園・体育科・生活指導部）

(5)　考　察

今回の体験学習への取組みは、当初のねらいを十分に達成したと言える。生徒が普段接することのない社会を垣間見たことは、生徒にとって貴重な実体験であり、学校生活では見られない積極性や責任感を引き出すことができた。このような地域での自然体験や社会体験などのさまざまな活動は、生徒一人一人に「生きる力」を身に付けさせることができると感じた。今後は、学校と地域社会が連携を一層深め、生徒の教育にかかわっていくことが大切であり、そのためには、計画的・継続的な指導体制を確立することが重要である。

5　生徒会活動ー自己実現を目指した文化祭企画指導の工夫ー

(1)　ねらい

本校は定時制単学級のため生徒数が少ない。このため、学校行事が沈滞化している現状がある。文化祭においても、毎年すべてのホームルームが食堂で模擬店を行い、生徒の中から新しい企画が出されることはなかった。

また、教師が生徒会役員に「例年と違う文化祭を企画をしよう」と提案しても、「かったるい」「つまんねー」「意味ねーよ」「何でもいいよ」と消極的な答えばかりが返ってきた。

この原因は、生徒が学校行事を通しての充実感や達成感を期待する以上に、その過程での苦労を嫌がったり、失敗を恐れたりするためであると考えられる。

そこで、生徒会役員に文化祭を通して

①　積極的に行動し、達成感や成就感をもたせること

②　集団の中での存在感と自己実現の喜びを味あわせること

③　自ら課題を発見し、意欲的にその課題を解決する能力を養わせること

以上の３点をねらいとして下記の実践を行った。

(2)　対　象　　生徒会役員　　８名

(3)　指導の観点とその経過

ア　企画の決定

生徒会役員に次の３点の問題を提起し、話合いをさせた。

①　マンネリ化した文化祭で良いのか？

②　一ヶ月前になっても準備が始まらない状態で良いのか？

③　生徒会が先頭に立って準備する雰囲気づくりをした方が良いのではないか？

最初、「毎年の流れに乗ればいい」と言う意見の生徒が多かった。しかし、教師が問題提起の理由を説明していくうちに、生徒から「生徒会役員が中心になって食堂の飾り付けを行おう」と提案され、実施することになった。

イ　企画の内容検討

生徒会役員に次の４点を助言し、内容について話合いをさせた。

①　文化祭テーマに沿ったもの

②　全員で共同して作れるもの

③　最後までやり遂げられるもの

④　すばらしいと思えるもの

その結果、全日制課程と共通のテーマである「映画村」に沿って映画のキャラクターで食堂の入口を飾り付けることになった。

表１　スケジュール表

月日(曜日)	活動形態	活動内容	学年	新活動	月日(曜日)	活動形態	活動内容	学年	新活動
9/1 (月)	会議①	文化祭について討議			24 (水)	会議	形作り (和紙・粘土)	ＨＲ	練習
3 (水)	会議①	文化祭企画の決定	ＨＲ		26 (金)	会議	塗装作業		練習
4 (木)	会議②	企画内容の検討・決定			28 (日)				公式戦
6 (土)	会議③	スケジュールの検討			29 (月)		塗装作業		
10 (水)	会議④	役割分担の検討・決定	ＨＲ		30 (火)		作業予備日		
12 (金)	会議	骨組みの作成			10/2 (木)				練習
17 (水)	会議	骨組みの作成	ＨＲ		3 (金)	準備日	飾り付け	作業	
19 (金)		形作り (和紙・粘土)			4 (土)	準備日	完成予定日	作業	
22 (月)		形作り (和紙・粘土)		練習	5 (日)	文化祭			

ウ　スケジュールの検討

生徒会役員に次の２点について助言し、話合いをさせた。

①　できるだけ話合いがもてるようにスケジュールを立てること

②　具体的で分かりやすいスケジュールを立てること

その結果、生徒は文化祭当日から逆算して一ヶ月前からのスケジュールを立てた。このスケジュール（表１参照）には、生徒会の活動内容や会議日程とホームルームやクラブの活動日程等を併記した。このことによって、生徒に責任感が生まれ、作業が円滑に行われるようになった。また、生徒が週２回の会議を行うことで、作業の進捗状況を把握し、今後の課題について検討することができた。

エ　役割分担の決定

役割分担の決定では、次の二点を助言した。

①　自分の能力や個性を考えること

②　自分に最も適切な役割を選択すること

この結果、総監督、設計図立案係、制作係、買い出し係を決めて、各自が責任をもってこれらの役割を引き受けた。また、生徒会役員だけでは人数が足りないので、自分たちで数名の協力者を募ったりもした。（写真１参照）

写真　１　生徒の作業風景

(5)　結果と考察

今までの生徒会は、雑談の中から何となく意見をまとめて学校行事を進めてきた。今回は、教師が生徒の自発的な活動をできるだけ尊重しながら、生徒が自ら活動の計画を立て、協力し合って文化祭に取り組めるよう助言した。特に、生徒の良い点をほめるように配慮した。

最初、生徒は計画的に行う企画に戸惑っていたが、次第に新鮮な気持ちで、互いが意見を出し合い、課題解決に向けて全員で取り組む雰囲気が生まれた。また、生徒は継続的に考え、行動することが苦手で、一ヶ月の短い期間であったがさまざまな問題が発生した。生徒が作業日に集まらなかったり、部活動の公式戦で出席できなくなったりして、作業が大幅に遅れたりした。しかし、生徒は週２回の会議を有効に活用して対策を検討した。ある生徒は都合をつけて仕事を休んだり、始業時間の前に登校したりして作業を手伝った。このように、互いに協力し合うことで、当日の開催直前に飾り付けを完成することができた。

文化祭終了後、生徒は「はじめは完成しないのではないかと思った」「完成したものを見て、自分たちもやればできると思った」などの感想を述べた。このことは、生徒一人一人が達成感や成就感をもつとともに集団の中での存在感と自己実現の喜びを味わうことができたためであるといえる。今後も、教師は、生徒一人一人がよりよく成長していくために、さまざまな機会をとらえて、継続的な支援をしていくことが重要であると考える。

6　生徒会活動ー生徒による体育祭の企画・運営に向けての指導の工夫ー

(1)　ねらい

体育祭は、日頃の学習の成果を学校の内外に発表するとともに、教師と生徒、生徒相互が人間的な触れ合いのできる機会である。また、生徒が協力して活動することによって、成就感や充足感を味わい、連帯感を高めることができる行事でもある。

しかし、最近の本校の生徒は、体育祭に自主的、積極的に取り組む姿勢がみられなくなってきている。その原因は、アンケート調査結果にもあるように、次の２点が考えられる。

①　学校行事の企画・運営に深くかかわった経験が少ないこと

②　学校行事への参加意欲が乏しく、何事にも受け身の姿勢になっていること

そこで、本事例では、体育祭実行委員会の活動を通して、生徒に課題意識をもたせ、積極的にその課題を解決し、行事をやり遂げることによって成就感や達成感をもたせることをねらいとした。その際、教師の指導上の留意点として次の４点を特に考慮した。

①　積極的に自分たちの手で作り上げていこうとする自主的、実践的な活動にすること

②　活動の目標と計画を立て、役割を分担し、積極的、継続的に実践させること

③　生徒自らが課題を発見し、その課題を解決していく力をはぐくませること

④　活動そのものの楽しさや目標を達成したときの喜びを体験させること

(2)　対　象

体育祭実行委員　32名（各ホームルーム２名で、１名は体育委員を兼務）

(3)　方　法

本校では、毎年10月初旬に体育祭を実施している。体育祭の準備は、３月の春季リーダー研修会を実施することから始まり、体育祭当日までの７ヵ月におよぶ長期間の活動である。このため、さまざまな工夫をして、生徒のやる気を喚起しながらその力を継続できるようにする必要がある。特に、春季リーダー研修会は体育祭を成功に導く上で重要な研修会となっている。（表１参照）

○　春季リーダー研修会

リーダー研修会を実施するに当たって、次の点を配慮して指導した。

①　２泊３日の宿泊研修会では、教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めること

②　事前に生徒会役員が議事進行マニュアルを作成し、話合いの内容を明確にすること

③　従前の参加対象者（生徒会役員、各委員会委員長）以外に運動部生徒有志（その年の体育祭実行委員及び次年度候補予定者）を加え、体育祭への意識の高揚を図ること

リーダー研修会では、運動部生徒有志を加えたことによって、従来よりさまざまな意見が出され、活気のある話し合いができるようになった。例えば、体育祭に意欲的に取り組めない理由として「体育祭の種目が体育の授業に似ていて『祭』の要素があまりない」「好きな種目がない」「応援ができる場面が少なく活気がない」「リーダーが不在である」などの意見が出された。そして、「昨年度までの応援合戦をさらに発展させること」「生徒の興味・関心が得られる新種目を導入すること」などが提案された。

表１　体育祭までの体育祭実行委員の活動と教師の支援

実施時期	体育祭実行委員の活動	教師の支援
3月下旬 春季休業	○春季リーダー研修会 ⇨前年度の反省 ⇨応援合戦の継続発展と学年種目の刷新を提案 ⇨ＬＨＲで提案内容の伝達することを確認	○企画への興味・関心に傾倒し過ぎないように助言 ○物理的条件や安全面への配慮した企画になるよう助言 ○企画提案者として責任をもって目的の実現に向けて努力するよう助言
4月初旬	○ＬＨＲで体育祭実行委員の選出	○ＨＲ担任に研修会参加者が選出されるよう雰囲気作りを依頼
	○第１回体育祭実行委員会 ⇨新体制作り（委員長の選出） ⇨仕事内容の確認（上級生の体育祭体験談等） ⇨研修会の提案内容の周知徹底と実現までのプロセスの確認	○新１年生が理解し、動機付けになるよう助言 ○体育祭の記録ビデオ・写真や過去に使用した用具を利用して効果的に説明するよう助言
5月中旬	○ＬＨＲで体育祭実行委員からの提案 ⇨応援合戦の継続発展と学年種目の刷新を提案 生徒からの意見を吸収する。	○ＨＲ担任に体育祭実行委員からの提案をサポートし、建設的な意見がでるよう環境作りを依頼
5月下旬	○全校集会 ⇨応援合戦の継続発展と学年種目の刷新の承認	
7月初旬	○第２回体育祭実行委員会 ⇨ＨＲに新種目の検討を依頼	○施設、競技時間、生徒の実態などを考慮して提案するよう助言
9月初旬	○第３回体育祭実行委員会 ⇨具体的な案を実演し検討 ⇨新種目の決定	○机上の案を実際に行い、面白い内容か、安全な競技か等を検討するよう助言 ○種目名に地域の特色を生かすことを助言
	○第４回体育祭実行委員会 ⇨仕事分担	
9月中旬	○応援団結団式 ⇨団長の選出（実行委員　３年から選出） ⇨上級生の模範演技と体験談	○教職員へ協力を依頼 ○記録写真やビデオの貸出
9月下旬	○学年練習・全体練習・応援合戦リハーサル	
10月初旬	○全校集会（体育祭前日） ⇨実行委員長のあいさつ ⇨生徒会長あいさつ	○実行委員に今までの取組みを説明し、全校生徒が共感し、連帯感を高めるよう配慮
	○全校集会（体育祭終了） ⇨表彰式	○実行委員の努力を全校生徒でねぎらうよう配慮
	○第５回体育祭実行委員会（事後学習） ⇨実行委員会と応援団の反省会	○実行委員会と応援団の成長を互いに確認し合えるよう工夫 ⇨教職員向けのアンケート結果などの活用

(4)　結果と考察

体育祭実行委員は春季リーダー研修会を契機に体育祭に向けて活動を重ねた。その結果、教師がこれまで体育祭の準備から当日の式進行までのすべてを行う教師主導型から、生徒が自己の個性を発揮し、自主的・主体的に取り組む生徒主導型の体育祭が実施できるようになってきた。これは、生徒が体育祭に向けた話合い活動を通して、会の運営の仕方を学んだこと、自分たちで体育祭を作り上げていこうとする自覚をもったこと、さらに、実施上の課題を発見し、その課題の解決に向けて努力するようになったことが大きく影響していると考えられる。

体育祭終了後、生徒の中から、「来年も絶対に（体育祭）実行委員として体育祭に参加する」「大変だけどやりがいがあるので、３年間応援団員と体育祭実行委員を兼務していきたい」という声が寄せられた。

このような生徒主導型の体育祭を実施していく上で、次のことが大切であると感じた。

①　生徒の意識を高めるためには、教職員の理解と協力体制を整えることが重要である。

②　上級生の体験談、応援団練習中の模範演技などは、下級生の動機付けと励みになる。

③　リーダー研修会で教師と生徒、生徒同士の人間関係を築くことが、その後の活動の基礎となる。

今後も、教師は、さまざまな行事への活動をとらえて、生徒に困難や苦しみを乗り越えさせながら、本当の「楽しさ」「おもしろさ」を実感させ、自信をもたせていく必要がある。そして、この自信が新たな課題に挑戦していく力になると思った。

V　まとめ

本年度教育研究員は『集団活動を通して生きる力をはぐくむ指導の工夫』という主題を設定して、ホームルーム活動・学校行事・生徒会活動に焦点を当てた。生徒に興味・関心・目的のもてる集団活動を通して「意味ある他者」の存在を意識し、自己理解・相互理解を図り、感動や悩みを共有しあい、友人とより良くかかわる力を身に付け、集団の中で個人の成長・発達が評価できるような指導について研究をおこなった。

９月に実施したアンケートからは次のような考察がなされた。

① 家族も含め人間関係が希薄になっており、広く浅い交友関係しかもたない生徒が多い。
② これまでに学校以外の地域も含めて、集団活動の経験の少ない生徒が多い。
③ 問題を意識し、意欲的に取り組み、よりよいものを作り出していこうとする課題解決能力を発揮できていない生徒が多い。

そこで、この考察からホームルーム活動・学校行事・生徒会活動の指導方法の工夫について３つの提言（Ｐ７参照）と６つの実践事例を以下のように示した。

○ホームルーム活動	(1)	自己理解を深める指導の工夫
	(2)	自ら考え、話合いを通して生きる力をはぐくむ指導の工夫
	(3)	生きる力をはぐくむ文化祭ステージ指導の工夫
○学　校　行　事	(4)	地域社会との連帯・協力を図った集団活動の指導
○生　徒　会　活　動	(5)	自己実現を目指した文化祭企画指導の工夫
	(6)	生徒による体育祭の企画・運営に向けての指導の工夫

これらの実践事例から、生きる力をはぐくむ指導には次の観点が必要である。

① 生徒が自己理解を深めること。特に、「意味ある他者」からの自己理解を図ること。
② 生徒自らが活動の目標と計画を立て、実行していく主体的・自主的な活動にすること。
③ 自分の存在感を見い出し、自分の役割を積極的、継続的に果たせるようにすること。
④ 自ら課題を発見し、筋道立てて考え、意欲的にその課題を解決する能力を養わせること。
⑤ 自己の良さや持ち味に気付いたり、達成感や成就感をもたせ、自信をもたせること。
⑥ 地域社会との連携を図り、学校教育活動の中に地域社会の教育力を取り入れること。

課題としては、次の２点が挙げられる。

① 計画的・継続的な指導体制を確立すること。
② 生徒の視点にたった特別活動づくりのための「ゆとり」を確保すること。

これらの観点を踏まえながら、教師は、常にホームルーム活動・学校行事・生徒会活動の在り方について課題意識をもつことが必要である。特に、個の成長をうながしながら人間関係を深めさせ、それが集団の力となるような意識が大切である。又、生徒が主体的に行動できるように、あらゆる機会を設定し、粘り強く指導と支援を行っていくことも大切である。このことにより生徒が本来もっている「生きる力」が高まり、達成感や成就感を共有しながら物事に意欲的に取り組み、みんなで成し遂げようと協調する態度や社会性、責任感が養うことができるのである。